



議員 荒木田 俊一 翠巒会

中学校の統合問題の方向性は。

市長

議論を最大喚起して  
方向性を次期総合計画に盛り込みたい。

市内中学校の今後の配置について

**質問** 中学校の統合問題は教育現場のみならず、地域づくりの根幹にさえも影響を及ぼす問題であるが、その方向性について問う。また、仙北市の各中学校は年々生徒数が減少する傾向にあるが、現在の生保内、神代、松木内、西明寺、角館の5つの中学校の設置のままなのか。

**答弁（教育長）** 教育的な側面と合わせて、学校経営、地理、地域の特徴等、多くの要素を総合的に判断し、今後一定の方向性が定まるものと認識している。

**質問** 教育委員会の中で市内中学校の統合等について、案件として扱われ、議論したことはあるのか。

**答弁（教育長）** 過去5年間、10数回にわたって定例会や協議会の場でとりあげている。合併前の町村での意向を踏まえ、保護者や地域の意向と経緯等について話題とし、他の地域における事例について情報収集も行い議論している。

**質問** 総合教育会議ではいつごろ中学校の統合問題に関しての方向性が出されるのか。

**答弁** 議論を最大喚起して次期総合計画に盛り込みたいという思いでいる。

**質問** 現在の教職員の配置で課題。

問題点は無かったのか。

**答弁（教育長）** 学校の規模に応じ、教職員は配置されるが、生徒数の増減等により配置数が変わる場合には異費非常勤講師の配置で対応している。

**質問** 指定学区以外の指定変更は、ここ5年間でどれくらいあったのか。また主な理由はどのようなものか。

**答弁（教育長）** 5年間での申請件数は82件で、主な理由は転居による変更や放課後の留守家庭の預け先による変更等となっている。その他の理由の中では、やりたい部活動に起因するものは16件となっている。

18歳選挙権法案の成立について

**質問** 未成年者の政治参加意識を高め投票率の向上に向け、どのような形で臨むのか。

**答弁（選管委員長）** 保護者も含め、家族への常時啓発がより重要になると認識し、市の広報やホームページなどを活用し選挙に関する啓発を地道に継続的に進めていきたい。

**質問** 若年者の投票率向上に向けた取り組みをどうしていくのか。

**答弁（選管委員長）** 低迷する選

挙への興味、参加意識を高めるために、政治を体感できる機会を

与える環境をつくる必要があると考えている。多様な考えに触れながら他者の議論や討論の場を通じて、ともに理解し納得できる結論を得るといった状況を見ることを体感することによって意識の高まり

は望めるものと考えている。投票環境の向上についても、期日前投票所の柔軟な設置を検討するなどして対応していきたい。

**質問** 学校教育の中でも、政治参加意識の向上に向けた取り組みが今後必要と思われるが、どうかかわっていくのか。

**答弁（教育長）** 小・中学生の段階から政治や選挙への関心を引き出して、社会生活を営む力を育てていきたいと考えている。



入札業務委託等について

**質問** 市内企業でも出来るものが殆ど市外業者に発注されていると

いう苦情が多く聞かれる。単に入札金額が安いだけでよいのか。

**答弁** 入札及び随意契約については、平成22年に制定された「仙北市の物品調達、業務委託等の市内優先発注に関する条例及び施行規則」に基づいて参加を依頼している現状である。引き続き入札及び契約の透明性及び競争性が図られる限りにおいて、市内業者を優先したいと考えている。法律のもとで最低価格をもって契約者の決定をしているが、市内業者の保護育成につながる手法については今後検討していく。

**質問** 市内企業の参加や育成にどう取り組んでいるのか。

**答弁** 広報物により各種セミナーや試験等について紹介をし、市内業者の資格取得を応援しながらサポートしている。

**質問** 仙北市の物品調達、業務委託等の市内優先発注に関する条例はどの程度徹底され、生かされているのか。

**答弁** 件数や金額で、それぞれの分野でのばらつきはあるが、条例制定後に伸びている部分もある中で、引き続き事業所等の育成を進めていきたいと考えている。

(真崎寿浩記)

国際化に対応できる職員を採用せよ。



仁政クラブ 佐藤大成 議員

市長 必要性を強く感じている。

未来に向けた道路整備について

**質問** 院内・潟地区を結ぶ道路整備は、人命救急、災害発生時の迅速なライフライン道として、さらには辰子の生家、大蔵神社、ユキツバキ、旧潟分校、建設予定のクニマス未来館、そして田沢湖などの多くの観光資産を結ぶ観光道として大きな意義を持つ。県や国へ強く要望し、道路を整備すべきと考えますが、トンネルの整備計画も含め何う。

**答弁** 道路、トンネル整備の具体的な計画は今のところない状況である。この区画を新たに整備すると、トンネルという構想も含めて行うとした場合、概算事業費だけでも100億円を超える大きなプロジェクトとなる。国の補助事業の現状や費用対効果等を考えても、かなりハードルが高い。しかし、可能性を捨ててかかるということはしたくない。国並びに関係機関と相談したい。

小中学校の統廃合について

**質問** 生徒児童数が減少している中、市では小中学校の統廃合を最重要課題と位置づけているとしているが、その本気度が全く見えない。本当にこの問題を最重要課題として捉えているのか。特に小規模のデメリットを考慮した場合、

中学校については3〜5年で1つに統合するべきではないのか。今後、意識調査の実施や統廃合計画を策定し、他の成功事例も参考に統廃合へ速やかに踏み切るべきと考えるがどうか。

**答弁** 市ではこれまで、学校統合については最重要課題として、教育総合会議等においても多様な角度から検討している。現在は児童生徒や保護者、地域住民等と様々な場面で意見交換を行っているが、今後、調査用紙等による意識調査も検討したい。子供たちに対するメリット・デメリットを含めた教育的な側面、さらに学校が地域活性化の拠点であるという側面、また、地域の地理的な条件など、総合的に判断しながら慎重かつ丁寧な手順を踏んで合意形成に向けて最大限の努力を払う必要がある。そうした事情から、仮に今後中学校を統合する場合には、全市の中学を一つにまとめることがはた、局部的統合ということが適切ではないかと考えている。

専門知識・スキルをもつ職員の採用について

**質問** 専門職の知識、経験を持つ職員の活躍により、自治体の抱える課題解決につながった例がしばしばクロースアップされている。

本市でも、外国語スキル、国際見識のある職員を積極採用するべきと考えるが、その必要性をどう考えているのか。また現在、外国語での会話スキルのある職員はどの程度いるのか。

**答弁** 現在、台湾や東南アジア諸国など、本市でも外国との交流事業が盛んに行われている。そのため、外国語の会話ができる職員、国際的な見識のある職員の必要性は、強く感じている。語学に留まらず様々な要素の強化が必要であり、4月から国際交流の窓口である農山村体験デザイン室に国際交流の窓口を一本化して活動の強化に当たった経緯もある。また、昨年7月には、国際教養大学と国際交流に関する連携プログラム協定書を締結し、桜まつりやW杯では、すばらしい活躍を頂いた。市役所として職員を抱える手法というのも当然あり得るが、これらのように外部ネットワークを構築する手法も有効だと考えている。また、外国語会話ができる職員が何名いるかについては、現在のところ把握は出来ていないが、大学の英文学卒、あるいは英国語教諭の免許を取得している職員は6名在職している。

**質問** 自治体国際化協会の自治体職員交流事業等を活用し、期限付

き研修採用を実施してはどうか。また、更に国際的に売り込んでいくため、現地を熟知した職員の育成、スピーディーな情報の入手を図るべく、交流する国々に対し、臨時的にでも駐在員や支局があつていいのではないのか。

**答弁** 自治体国際化協会の自治体職員交流事業は、総務省が費用の2分の1を特別交付税措置し、海外的自治体の職員を任期つきで受け入れ、国際化対策を強化する事業であると認識している。職員には是非そういう気概を持って臨んでもらいたい。

また、市単独で海外に駐在員、支局等を設置することについては、費用対効果等の議論を積み上げての計画が何よりも必要である。今後の検討課題としたい。

(高橋 豪記)



■院内・潟地区を結ぶ道路



# 仙北市の伝統工芸品である樺細工の売上が伸び悩み低迷している。この現状を打破する対処をしているのか。

民政会議 安藤 武 議員

## 市長 国内だけでなくヨーロッパにも販路の開拓をおこない需要の掘り起こしを行っている。

### 樺細工の後継者育成について

**質問** 伝統を受け継ぎ、専門的な技術を有する若手の育成はどのような方法で行っているのか。

**答弁** 伝統工芸樺細工技能育成実施要領に基づき5年間の研修期間で後継者を育成する制度となっている。主な内容は道具の購入費などの支度金として5万円、研修生1人につき3年間は月額8万円、4・5年目は、月額5万円を指導者に支給をして後継者の技術習得をサポートしている。

### 原料の確保について

**質問** 樺の確保と山桜植栽の現状はどうなっているのか。

**答弁** 原材料の確保は、山林内の自然樺の採取と山桜の人工植栽で樺を育てて採取する方法がある。いずれも角館工芸協同組合が主体的に取り組んでいる。

自然樺の採取に関しては現在青森、岩手、宮城等東北を中心に行っている。最盛期には100tあった採取量は現在7t位まで大きく落ち込んでいる。樺は数年の乾燥を必要とするので、現在は以前採取した在庫で何とかやりくりしているが、いずれ備蓄が底をついてしまうのではないかと心配している。人工植林の樺に関してはこれまで30万本の山桜を植えたが下刈り、間伐等の手入れが行き届いて

いたために逆に一部に良質の樺の育成を阻害していた面も否めない。そのため、萌芽更新や混栽等を実施改善を図っている。市内には古くから大山桜に適した院内地区や玉川地区、岩の目公園周辺等多くの適地があるので、適地への植栽を進め資源の確保を図る。

### 販路の開拓について

**質問** どんな地域、どんな客層に需要があるのか。また、各庁舎での利用は考えられないのか。

**答弁** 全国的な見本市に参加して樺細工のPR活動に努めている。また、今年度で43回となる樺細工工芸展への支援を始め、平成25年度から岐阜県多治見市、静岡県掛川市、岩手県奥州市と連携した茶文化プロジェクト事業等で樺細工のアピールにも努めている。国内対応では現在の消費者ニーズに合わせた新製品の開発であったり、木や漆といったほかの工芸素材との競作などで新しい地域や客層を開拓しつつある。また、樺細工問屋の業者が海外戦略ということでイギリス、フランス、イタリアなどヨーロッパを中心に海外進出に熱心に取り組んでいるとともに高級ブランドのクリスマスチャン・ディオールやクリストフルとのタイアップも実現し現地での評価も高まっている。市内でも各種イベント

のメダルや盾の制作、ふるさと納税の返礼品として掲載している。また、市役所各課でさまざまな使い方について提案してほしいという議論を始めている状況である。



■販路拡大へ 茶文化プロジェクト事業

### 飼料用米について

**質問** 飼料用米の作付面積と飼料用米重視の農政を信頼しても良いのか。

**答弁** 6月4日現在、飼料用米の作付面積は129.5haである。国では平成37年度の飼料用米生産努力目標を110tとし、それに向けての諸施策を実施しており、飼料用米生産が現在のより現実的な対応であると思慮する。

### 米の生産調整について

**質問** 米の生産調整は目標を達成したのか。

**答弁** 生産調整は6月4日時点では、仙北市に配分された転作率42.0%の目標を上回る見込みで推移していると認識している。

### 戦略作物について

**質問** 戦略作物の作付けは順調に推移しているか。

**答弁** 戦略作物の作付けは、麦17.7ha、大豆204.9ha、飼料作物310.5ha、ホルクroppサイレージ93.8ha、加工用米305.1ha、飼料用米129.5ha、米粉用米13.5haとなっており、順調な作付けとなっている。  
(門脇 民夫 記)

**農地中間管理機構について**  
**質問** 農地中間管理機構の農地集積への実績と今後の問題点はないのか。  
**答弁** 仙北市の26年度末の農地中間管理機構の農地集積面積は3,918haで集積率は69.59%となっている。問題点は、10年後の事業目標である集積率90%を達成するためには、圃場区画面積を拡大させる等進まない中山間地圃場の整備状況を促進させ、借り手となる担い手が受けやすい基盤づくりを整えることと、農地中間管理機構が積極的に貸し手に関与し農地

## 桜まつり観光事業の見直しを図れ。



市民クラブ 八柳良太郎 議員

### 市長 弘前市プレ桜まつり等を参考に取り組みたい。

#### 角館桜まつり観光事業の見直しと 駐車場整備について

**質問** 桜まつりの経済波及効果と観光客数前年比3%、4万人減は適正な発表であったか。一方前年比観光収入が20〜40%落ち込んでいるとの見方もある。

**答弁** 祭期間中の経済波及効果は観光消費額62億円、観光客数延べ118万6,000人、日帰り客数117万1,123人、宿泊客数1万4,867人、1人当宿泊消費額1万4,867円・日帰り客消費額5,052円で、北陸新幹線開業の影響は、最小限であったと思う。

**質問** 古城山公園・落合河川公園は条例上範囲が明記されていないが、ウソの駆除対象になっているか。野球場・ゲートボール場を除く川沿い、芝生の消防訓練大会の箇所も公園になっているのか、お聞かせ願いたい。桜まつり実行委員会の会期の最終決定時はいつになるのか。今後、会期決定を開花時期に合わせるよう見直すべきではないか。桜の開花次第では、前倒しできないものか。出店者の前倒しの要望が実行委員会に提示されたのか。

**答弁** 古城山・落合公園の桜も市

の大切な財産であり、角館猟友会に業務委託しウソの駆除対象とし、今後実施したい。お客様の危険防止上、桜開花に合わせ警備員を前倒し配置した。

桜まつり期間決定は首都圏キャラバン・大手旅行会社・旅行商品発売のため、固定せざるを得なかった。出店業者反省会でも同要望が出されており、今後フレキシブルに対応したい。弘前市プレ桜まつり等を参考に組みみたい。

**答弁**（熊谷教育長） 仙北市の桜を弘前市や北上市の桜を目標にして取り組んでいる。ウソ対策対応区域は松木内川左岸内川橋から鶴ノ崎橋までを対象としている。

**質問** 桜樹木関係予算が文化財所管597万円、伝建群樹木保護費331万円であるが、弘前市公園緑地課は年間5,000万円桜保護等樹木対策に当てた。仙北市も桜予算確保の為任意に100円カンプを集める事も有効手段ではないか。

**答弁** 仙北市の桜保護関連予算が貧弱であった事を反省し今後対応したい。

**質問** 桜まつり駐車場確保のため、公的駐車場の他、民間駐車場のマップを作成し観光客のため、民間

駐車場の呼び込みマナーの改善を図るべきではないか。

**答弁** 公的駐車場だけでは足りないため、民間駐車場の組織化を図りマナーを良くして、お客様の受け入れ態勢に努めていくようお願いしたい。そのため、マップ上に公的駐車場とともに民間駐車場も載せたい。駐車場の案内誘導看板を設置したい。桜まつり期間中駐

車場7力所千台確保し、官民合わせ二千台以上駐車可能となったが、武家屋敷以外満車とならなかった。

民間駐車場マナー向上を図り、案内板設置等誘導強化に努めたい。今後地方創生交付金を活用しプレミアム付き商品券発行事業で活用を図り、観光客増加につなげたい。  
（高久昭二記）



■平福美術館前のシダレザクラ



高久昭二 議員

諸課題が解決するまで  
クニマス未来館の建設を保留せよ。

市長 田沢湖再生のため建設を進めていく。

**安倍内閣が推進する「戦時立法(安全保障法制)」と仙北市への影響**

**質問** 現在、国会で安全保障法制について議論されているが、安倍内閣は現憲法が定めている不戦の誓いを破り、国民や市民を危険な方向に引き込もうとしているように感じている。

そこで、大平洋戦争当時の仙北市民の苦難、犠牲の歴史から学ぶという考えに基づき、市主導で8月15日を境に平和展を並びに巡回展示会を行うべきと考える。加えて、日本国憲法9条の大切さと戦時立法(安全保障法制)の危険性について門脇市長の考えを伺う。

**答弁** 太平洋戦争での仙北市の犠牲者は、1,112人いる。憲法第9条は、国の財産であり、平和展等に関しては平和を願う国民の一人として、開催を応援したいと考えている。また、昨年9月の閣議決定については残念な判断であったと考えており、政府としてさらに丁寧な説明で国民の理解を求める努力が必要だと思っている。

**田沢湖再生、クニマス未来館関連事業の諸課題と仙北市の財政負担について**

**質問** 今年の1月13日に秋田県佐

竹知事と門脇市長との間で、田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクト策定確認書が交わされ、整備作業が進められている。

田沢湖町時代からの悲願であり、これからの将来の子ども達のために、田沢湖を再生し、そしてクニマスを蘇らせることについては本当に期待している。

しかしながら、本事業については課題が山積している。稚魚の譲り渡し、湖水の浄化、田沢湖周辺の観光施設等の整備のめどが立つまで、クニマス未来館の建設は保留すべきと考える。市長の考えを伺う。

**答弁** 稚魚については今年度中には難しい状況であるが、改善できるものと考えている。湖水は、東北電力をはじめとした関係者と、田沢湖再生に向けてあらゆる角度からの議論をスタートしている。施設の整備は郷土資料館にあるクニマス関係の資料を移して、多くの人々に見て頂きたいと考えている。

なお財源については、平成26〜30年度までの5カ年の総事業費は、約4億3,000万円。内訳は、クニマス未来館の整備事業に3億8,200万、湖畔の再生(鳴砂

の復活)事業に310万、田沢湖再生シンボルモニュメント整備事業に1,400万、EV自転車整備に500万、田沢湖湖底調査事業に900万、その他1,700万円となっている。

**仙北市若者定住促進と子育て支援について**

**質問** 仙北市内で働く若者の雇用形態は、臨時・パート・派遣職員が非常に多く、地元での結婚・子育て環境が必ずしも恵まれた状況にないと理解している。そこで、若者に対する住宅補助、第二子からの保育料無料、給食費の一定補助、中学3年生までの医療費の無料化に対する考えを伺う。

**答弁** 若者への定住促進と子育て支援の重要性を認識している。定住促進奨励金や新婚世帯への家賃助成を、実施しているが、もう一歩進んだ支援環境を作りたい

と考えている。第二子からの保育料無料については、既に検討し積算の段階に入っている。中学3年生までの医療費の無料化については、概算で2億円、交付税の削減幅を考えると将来維持していくには、4億円くらいかかると想定している。予算上負担が大きいが、実現のために予算編成段階で最初

に寄せておくというくらいの対策を講じたいと考えている。  
(佐藤大成記)



■クニマス未来館の建設に向けて

# 学校給食費無料化の考えは。



共産党 平岡裕子 議員

## 教育長 効果など慎重に検討し方向性を示す。

### 高齢者除雪支援充実のために

**質問** 昨年度からスタートした、高齢者世帯等除雪支援事業は、その事業内容が十分練りあがっていない中での実施だったと思う。

申請後、決定通知と登録業者を知らされ、利用者が業者に依頼しても距離が遠いため必要な時に対応してもらえない等、多くの苦情が聞こえた。また、おかげで一冬安心して暮らせたとの声もある。

昨年度の検証結果と今年度実施に当たり検討していることを伺いたい。

**答弁** 新たな制度のもとで実施したこともあり、試行錯誤しながらの対応であったと思う。そのために市民の方々は利用しにくいなど、多くの声があった。

これまでいただいた意見や苦情の解消に努めるため、検討会を重ね、今年度は次の6点の改善策を準備した。

1. 申請手続きの簡素化、申請時の非課税証明書添付を委任状で担当課が調査。
2. 除雪業者の制限を解除し、個人登録を可能とする。
3. 利用対象者を身体障害者手帳の3級以上、療育手帳・精神保健福祉手帳所有者と介護度3以上

上の認定者に幅を広げる。

4. 病気等、特別な理由で支援が必要と認められた世帯。

5. 対象作業を住宅から公道までとし、裏道避難路の確保にも利用可能とする。

6. 雪下ろし利用券は市内を6地区に区割りし、市で調査して概ね100センチ超え、今後増加が見込まれる場合などである。その他、特別な事案がある場合は、あきらめないで、ご相談いただきたい。

### 子育て支援充実のために

**中学校卒業までの医療費無料化について**

**質問** 人口を増やしていく施策はどうしても必要であり、そのためには子供を産み育てやすい環境をつくることだと思つ。子育てにかかる経費は大きな負担となっている。義務教育が終わるまで医療費の無料化を実現してほしいと思つが考えを伺いたい。

**答弁** 子育て支援の充実に関しては市の存続をかけて最優先で取り組む政策であると認識している。無料化を想定した場合の試算では2千万円以上の手当てが必要になる。この財源を将来にわたって

継続できるか総合的な判断が必要になる。

### 学校給食の無料化について

**質問** 今、学校給食無料化の取り組みを進めている自治体が増えていく。食育の面から考えても給食は大変重要である。

食育も教育の一環とすれば無料化への背景として十分考えられると思うがどうか。

**答弁** 無料化を実施した場合、多くの子育て世帯が恩恵を受けると同時に、1億1千万円程度の財源が必要になる。この財源をどこに求めていくか極めて大きな課題が残る。

今後、無料化によって得られる教育的・福祉的、少子化対策上の効果など慎重に検討し方向性を示していきたい。

### 予防接種の助成について

**質問** 水ぼうそうの予防接種が公的負担となり、ほっとしている保護者も多いと思つ。

子育てで一番の願いは、病気や怪我がなく元気に育つてほしいというのが親の願いである。そこでインフルエンザの予防接種助成についての検討は如何か。

**答弁** インフルエンザ予防接種助成については、その時その時の流行状況、また症状の重篤性をいろいろと勘案し、しっかりと対応していく。

### 平和問題について

**質問** 国会では、昨年7月に閣議決定した集団的自衛権行使容認を実現するため、安保関連法案成立のため、集中審議をしている。市長の見解は。

**答弁** 国・国民にとって最も大事な国防の姿を議論している国会を注視していかなければならない。また政府は、さらに丁寧な説明で国民にその思いを伝える努力が求められていると感じている。

(小林幸悦記)



■給食風景